

視察・研修報告書

視察・研修先	第84回全国都市問題会議
日時	2022年10月13日（木）～10月14日（金）
場所	出島メッセ長崎
テーマ	基調講演 民間主導の地域創生の重要性
対応者 （講師）	（株）ジャパネットホールディングス 代表取締役社長兼 CEO 高田旭人氏
概要	
<p>1. ジャパネットと地域創生</p> <p>サッカーチームが2017年にグループ会社になる。 通信販売のみならず、スポーツやまちづくりにおいても「みつける」、「磨く」、「伝える」事業方針を活かす。</p> <p>ジャパネットグループは、通信販売事業に並ぶ2本柱として、スポーツ・地域創生を掲げている。</p> <p>2020年プロバスケットチーム設立、長崎駅前スタジアムシティプロジェクトを進め、2024年の開業を目指す。</p> <p>2. 行政と民間の役割の違いについて</p> <p>行政の役割は公平性で民間企業の役割は幸福の最大化である。 公平性に作用されない民間企業だからこそ、行政にはできない思いきった取り組みをする必要がある。</p> <p>3. 長崎スタジアムシティプロジェクトへの想いと目指すところ</p> <p>観光資源が長崎には多くあり、場所の現状の把握をしていった。2024年9月開業を目指す。6000人収容可能なアリーナもスタジアムに設置予定。11階建てオフィス内に長崎大学大学院もはいる予定。VIPルームは試合がない日は、ホテルに変えることで稼働率をあげる。非日常の演出を企業内でする。</p> <p>商業施設 時間帯で異なるターゲット 時間帯に応じて駐車場料金を設定。滞在時間が長いほど割安の設定とする。 長崎県内の人口が増加し、出生率も上がり地域経済も良い方向へ動き、地域への誇りや自分自身の幸福度も上昇する姿を目指したい。</p> <p>4. 住み続けたいくなる地方都市となるために</p> <p>働き方改革（健康経営） 勤怠ルール改善、休日改善、働き方の多様性（16時退社）により離職率が減少 福利厚生 卵子凍結の補助最大40万 労働生産性全国38位 断捨離 コピー代10分の1になった。 整理整頓 備品スペース 個人キャビネットの整理 ノー会議タイム導入、集中ルームの設置</p>	

5. 全国を盛り上げる地域創生の展開

人が動いて幸せがつかれると考えている。

コロナ禍で食品の通販を行い、毎月地域の名産品をとどける。現在会員15万人。

BS放送局を立ち上げる。

スターフライヤーとの資本業務提携を行った。

所 感

行政と民間の役割を最大限にお互い活用し、連携することでまちづくりに一体感ができる。働き方改革は思うように進まない傾向があるが、トップの考え次第で変わるものだと痛感した。

-作成者 松田美由紀-

視察・研修報告書

研修先	第84回 全国都市問題会議
日時	2022年 10月13日(木) 9時30分 ~ 10月14日(金) 17時00分
場所	長崎市 出島メッセ長崎
テーマ	長崎市の魅力あるまちづくり 100年に一度の長崎
対応者 (講師)	田上富久 長崎市長
概 要	
<p>1. 長崎市とは</p> <p>九州の西端、長崎県の南部 面積 405.86 平方キロメートル 人口約 40 万人 長崎港を中心にすり鉢状の町 明治 22 年長崎市スタート 平成の合併で 1.7 倍に</p> <p>2. 長崎市の個性</p> <p>「港あり 異国の船をここに招きて 自由なる町をひらきぬ 歴史と詩情のまち長崎 世界の長崎 ..」長崎学創始者 古賀十次郎</p> <p>1, 人口減少—人口密度の減少の中で、ネットワーク型コンパクトシティへ 都心部—地域拠点—生活地区 を公共交通により連携する</p> <p>2, 長崎駅周辺（陸の玄関） 西九州新幹線の開通 2022 年 9 月 23 日 出島メッセ長崎 長崎くんち中止 3 年間を経て出島メッセで実施 2023 年 5 月 G7 保健大臣会議が予定</p> <p>3, 松ヶ枝付近（海の玄関） 南蛮船時代—出島・唐人屋敷時代—居留地の時代—上海航路の時代—観光の時代 昭和の観光都市 ⇒ 21 世紀の交流都市へ 市民、事業者、来訪者が幸せな街へ</p> <p>4, 町の価値とは？ 母屋の魅力を高める 例：由布院、ドイツを訪問し静けさに価値があると気づく モナコを訪問した（世界 3 大夜景、港、歩けばフランス） モナコは富豪が住む（安全だから）、F1 モナコグランプリもできる 長崎：中心から遠い＝逆に中国に近い *個性を強みにする</p> <p>3. わがまちの価値とは？</p> <p>1, 価値を見つける 恐竜の骨を発見（福井県立恐竜博物館宮田和周） ⇒恐竜博物館（軍艦島が見える）、子ども広場、ガオガオ（地元の産物を販売）</p> <p>2, 価値に気付く 軍艦島（炭鉱の時代、S49 年閉山）H27 に世界遺産に 長崎、天草キリスト教世界遺産 長崎さるく（街歩き）街中に散らばる魅力を見つける</p> <p>3, 価値を磨く</p>	

景観専門監の制度の導入 (H25～高尾忠司)

専門監の関与で、鍋冠山展望台、出島表門橋の架橋、遠藤周作記念館（思索空間アンシャンテ）、町家の修景、レンガつくりのマリア園をホテルへ再生する

4. 価値を創る

2022年 長崎大学高度安全実験施設（BSL-4施設）⇒企業誘致も

大学の価値（オランダライデン市）

2024年 長崎スタジアムシティプロジェクト（株）ジャパネットホールディングス）

若者・市民の参加：さかのうえん（農園を整備）

地域課題が資源になる（空地・空き家⇒若者住まいコミュニティ）

4. まとめ

価値に気付くためには交流が欠かせない（風の人⇔土の人）

天の時（時代認識）、地の利、人の輪が大事

長崎らしい暮らしやすさで持続可能な地域社会の構築へ

所感

長崎を終着に新幹線が開通し、100年に一度という町の変化の渦中の長崎であった。原水禁世界大会などで何度も訪れた長崎であったが、改めて長崎の歴史、文化、自然、平和の街が世界レベルであることを感じた。そして、古今の様々な人達が資源を生かし熱意をもって長崎の魅力・価値を創ってきたこと。中でも市民たちが長崎の魅力を発見し「自慢」する「長崎さるく」のとりくみは、大野城市でも参考にできそうだ。

住む人たちにも訪れる人たちにも魅力的な街づくりの視点と、田上市長の真摯な人柄が伝わった素晴らしい報告であった。

—作成者 松崎百合子—

視察・研修報告書

視察先	第84回全国都市問題会議
日時	2022年10月13日(木)～10月14日(金)
場所	出島メッセ長崎
テーマ	何度も訪れたくなる場所～都市の新たな魅力と関係人口～
対応者 (講師)	島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美氏
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・もちがせ週末住人の家（週末だけその地域で暮らすライフスタイルを指す） まちを面白くしていけるのは、まちにいつも住んでいる人だけではないはずだ、だからこそ人口をシェアしよう。 ・島根県雲南市草刈応援隊 年に3回50人。草刈と交流を行っている。 イナカイルミとして運営を実施（働くツアー） 関係人口の聖地になった。 ・これからを考えるヒント～人が何度も訪れるヒント～ <ol style="list-style-type: none"> 1. 名前が覚えられる規模（量より質→満足度が上がる） 2. 準備から片付け、打ち上げまで一緒にやる（お客様は神様を捨てる） 3. 住民の思いや背景も伝える（ストーリー化） ・背景にある2つの変化 地域の変化（人が減ったことで開放性を持つ） 若い世代の変化 東京で起きていること：ふるさと難民（首都圏育ちの若い世代が増えたことで、帰省先に代表されるようなふるさとを持たない「ふるさと難民」が増えている。） ふるさと＝憧れがあるので、つながることに価値があり資源である。 ふるさと難民の行動として旅と移住の間を希望している。 関係人口は都市住民の課題解決にもつながっている。 これまで取り組まれてきた2本柱は繰り広げられる移住の定住合戦＝ゼロサムゲーム 地域での交流疲れがでてくる。 観光交流、関係人口、移住定住のそとの仲間も加えた3本柱を。 観光客（交流観光）と関係人口の違い。関係人口は地域の人と一緒に活動することであり、役割が違う。 ・おてつたび（地域にお手伝いをする旅） 関係人口の候補者、予備軍はたくさんいる。 関係人口が生まれる新しいインフラ 関係案内人を中心としたコミュニティ 公共交通機関（特に電車）、インバウンド、若者 最低限のインターネット環境 ・コロナ時代だからこそ大切にしたいこと 	

1. とりあえず関係人口！と安直に考えない
2. 近くの関係人口に目を向ける
3. 通う以外の関わりかたも実験してみる

・地域ってなんだろうと考える

地域は人の集合体であり、楽しく魅力的な人が多ければそれは楽しく魅力的な地域であり個性である。

つながりや地域と関わりたい人がいる。住んでいる人が生かすか生かさないかは地域次第である。

所 感

関係人口とは短期間の交流や観光という関わり方ではなく、長期間暮らし続けるという定住という関わり方でもない新しい関わり方のことであることを学んだ。大野城市でもボランティアとして関わりたいという声がある一方で実行委員会メンバーとして簡単には抜け出せないのではという思いから最初の一步が踏み出せない事例もよくある。担い手不足は全国的な問題であるが、今後どのようなまちを目指すかという自分自身の問いかけで始まる。

—作成者 松田美由紀—

視察・研修報告書

視察・研修先	第84回全国都市問題会議
日時	2022年10月13日(木)～10月14日(金)
場所	出島メッセ長崎
テーマ	ビジョンを活かしたまちづくり～選ばれる山形市を目指して～
対応者 (講師)	山形県山形市長 佐藤孝弘氏
概要	
<p>山形市は最上義光57万石の城下町として発展し、平成31年4月には中核市に移行し、山形連携中枢都市圏を形成している。</p> <p>・2大ビジョン選ばれるまちとなるための基本的な考え方 山形市では「健康医療先進都市」「文化創造都市」を2大ビジョンとして施策展開を行っている。</p> <p>○健康医療先進都市</p> <p>1. 市立病院の充実と山形大学医学部との連携</p> <p>2. 歩くこととそれを補完する公共交通の充実をまちづくりの中心に 電動シェアサイクルやコミュニティバスなど 自家用車に頼らなくても生活ができるまちづくりを進めていく。</p> <p>○文化創造都市</p> <p>山形市文化創造都市推進条例(令和4年4月)</p> <p>小学校旧校舎をやまがたクリエイティブシティセンターQ1にリノベーションオープンした。</p> <p>各地に美術品を展示 空き家をリノベーションし若者が住準学生寮プロジェクト 地域とアーティストが連携した活動 まちづくりの共通言語としてビジョンの重要性 市長自ら市政懇談会や経済団体向けの講話、市職員向けのビジョンに対する研修実施</p>	
所感	
<p>公共交通の充実による徒歩の補完は、大野城市でも課題である。タクシーを活用した新しいコミュニティ交通のモデル事業の開始も本市でも期待したい。また、健康寿命の延伸や医療費抑制のためにも自身の健康づくりは重要であり、市が仕組みをつくることは重要である。</p> <p style="text-align: right;">-作成者 松田美由紀-</p>	

視察・研修報告書

研修先	第84回全国都市問題会議
日時	2022年10月13日(木)～10月14日(金)
場所	出島メッセ長崎
テーマ	交流の産業化を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み
対応者 (講師)	一般社団法人地域力想像デザインセンター代表理事 高尾忠志氏
概 要	
<p>1. 長崎市のまちづくり戦略</p> <p>長崎市は日本の自治体でもトップクラスの勢いで人口が減少している。</p> <p>長崎市民の暮らしと経済を支える新しい産業を確立し、持続可能な地域社会と地域経済を構築することが重要な課題。</p> <p>2. 長崎景観専門監の導入</p> <p>個々のプロジェクトの集積でまちを大きく変化し、まち全体の価値が百、千のプラスになる。アプローチによるまちづくりを実現するために市長が発案し、景観専門監を設置した。市民のQOLを向上させ、シビックプライドを育てるきっかけを探る。</p> <p>3. 時代が求める価値とは</p> <p>地域の価値を高める取り組みが社会的な支持を得るには高次の欲求を満たすことが重要である。</p> <p>4. 価値創造に向けたデザインマネジメント</p> <p>その場所にいかないと享受できない価値が重要で、よりいっそう求められる。</p> <p>改修補修でデザイントータリティを高める事例紹介 平和公園</p> <p>思いを持って仕事に励めば工夫次第で価値を見いだすことができる。</p> <p>事例紹介</p> <p>現場をよく観察し、よいところを見つけ顕在化する。</p> <p>「誰もが」を一貫させながら体験を創造する。</p> <p>市民の暮らしに染み込んだライトアップを考える。</p> <p>市民のふるさと風景が観光客の思い出の風景となる</p> <p>部分から全体に働きかけることを意識する。</p> <p>環長崎港夜間景観向上基本計画</p> <p>光に対して丁寧に考える。</p> <p>日頃市民が愛する風景を観光客がみる。</p> <p>長崎でしかできない高次の欲求にこたえる。</p> <p>各自治体における環境的資本、社会関係資本、人的資本によって、質の高い景観まちづくりが実現される。</p>	
所 感	
<p>ビジョン作成から各事業の現場施工におけるデザイン調整まで一貫して関わっている職員は景観専門監のみであり、エリアの価値を最大化するために非常に重要な点であることに共感する。都市開発によって統一感のないまちやちぐはぐな印象を与える景観が</p>	

多い中、長崎駅に降りた印象はかなり変わった。大野城市の高架下事業も今後注視していく。

—作成者 松田美由紀—

視察・研修報告書

研修先	第84回 全国都市問題会議
日時	2022年 10月14日(金) 9時30分 ~ 12時
場所	長崎市 出島メッセ長崎
テーマ	個性を活かして「選ばれる」まちづくり - 何度も訪れたい場所になるために
講師	パネルディスカッション 大杉 覚 東京都立大学教授 野口 智子 ゆとり研究所所長 田中 敦 山梨大学生命環境学部教授 桐野 耕一 NPO 法人長崎コンプラドール理事長 都竹 淳也 岐阜県飛騨市長 藤原 保幸 兵庫県伊丹市長
概要	<p>5. 大杉覚氏 「選ばれる」まちづくりに向けた都市自治体のアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> 個性を生かして「選ばれる」まちづくり - 何度も訪れたい場所になるために 昨日の高田旭人氏の「人が動いて幸せが作られる」、田中輝美氏の「関係人口、人口シェア コミットしていく」など印象的。 幸せづくりをシェアするための行政の役割は？を問いたい <p>6. 野口智子氏 「人が人を磨き、輝く人が人を呼ぶ」～「雲仙人プロジェクト」の試み～</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地に住む人たちの人材育成に取り組んでいる 雲仙市「会いに行かんば 雲仙人(くもせんにな)」の事例 サロンを重ね、人が知り合う。そこで地域の宝の人たちがいる。 農家青年でバンドマン、旅館のシェフの小さな農園でとれた野菜の鉄板焼き、そこに伝わるだご汁などで楽しく、人が力を発揮する 和歌山県紀の川市「フルーツ・ツーリズム、ふる博」の事例 ワークショップで、アイデアを出し合う、自分ができることを出し合う フルーツのお菓子が得意な人・お茶会、橙があまる・ポン酢つくる、 モモノキ枝落とし・焚火・焼き芋 ⇒ 人が来るイベントに 誰でも来てくれればいいのか？ 迎える側も絶対行かないものになる 行政は世話しすぎないこと、市民の力が伸びるのをまつ 人が育つ：やりながら、いつまでに、誰がやるかを定める、しんどいけど育ちあう <p>7. 田中敦氏 ワークーションの意味の拡張と変異</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークーションとは、 <ul style="list-style-type: none"> ふだんの職場とは違う環境でテレワーク コロナ下で観光の低迷で菅政権が打ち出す 休暇の分散化、地域課題の解決につながる 行政・事業者・企業・働き手：企業がまだ少ない・日常にない気づきを得る NTT「職場は自宅」 *しかし、担当者は悩む：位置づけ言葉の変遷や広さ

- ・人に魅力を感じる、回流の停留所に
- ・週末は山梨に⇒平日もサテライトオフィス計画、カフェをオフィスに
- ・デジタルノマド：世界中から選ばれる街の可能性

8. 桐野耕一氏 人は人に会いに行く！ ～「まち歩き」で見つけた“まちのつくり方”

- ・2006年 長崎さるく博 街あるき（背景：1999年旅博覧会から観光客が減っていく）
- ・田上市長 お金がなくても人を呼ぶ方法：市民と考える ⇒ さるく博
- ・市民が長崎自慢をする、案内をする：驚く発見、自分たちの町を振り返るきっかけ
- ・市民の出番、盛り上げる、市民が関わる街づくりとなった
- ・街そのものがパビリオン 自分が案内人、出番があり認められる！
- ・人と人の交流：気付きを交換する
- ・真似をする、外側の目線、きてなら行こう・出会った人の町に、人に会いに行く
- ・出島、仲買人ポルトガル語コンプラドール

9. 都竹淳也氏 人口減少先進地の挑戦～ファンと共に取り組むまちづくり

- ・飛騨市 人口 22,661人 山が一番多い
- ・飛騨市に心を寄せて下さる方「君の名は」で有名に
- ・ファンクラブをつくる：会員証・特典あり、ファンの集い、
最初不満も：定員 40人～60人に、人と話せなかった⇒交流タイムを設ける
- ・お出かけファンクラブ、市長も街案内
- ・ふるさと納税が8千万へ
- ・スタッフとしてお手伝いしたい：関係人口へ
- ・ヒダスケ 困りごと：景観保全・石積み、農業・収穫や出荷など助っ人として来訪
*143のプログラム、困りごとは資源
- ・ファンクラブ：関心人口ー交流人口ー行動人口（ヒダスケ）
- ・人は人との交流を求めている

10. 藤原保幸氏 清酒発祥の地・伊丹～酒と文化が薫るまち～

- ・伊丹市 人口 20万人、大阪駅から電車で13分
- ・リクルート社：若い人たちが住み続けたい街、関西で第1位
- ・日本遺産：清酒発祥の地、伊丹空港
- ・伊丹大使：田辺聖子、南野洋子、花村そうたダンスとボーカル、ユーチューブで配信
- ・イメージ戦略、PR戦略が必要
- ・新庁舎 隈研吾、木、酒だるを使う、ZEB庁舎、市民サービスのデジタル化

質問：埼玉県越谷市議 ダサイタマからの転換は？

回答：街の宝物を発見し楽しんでみよう、フィールドに

質問：愛知県岩倉市：何度も訪れたい街にするには

回答：自分の体験になる、自己有用感、存在が認められる体験、ヒダスケ：喜んでもらえる

まとめ（大杉覚氏）

- ・ 自己有用感＝幸せが大事：焦ってはいけない
- ・ ビジョンをもってつながりを：つなぐ、媒介、伴走のスタンスで
- ・ 街はだれのものか、自分たちのものだと思えること
- ・ シビックプライド、市民自身が関心と参加
- ・ 長崎の街づくりに学ぶ：港あり、歴史と詩情の町、港は接続口、開かれた部分
- ・ 恐竜の骨：必ずあると確信し探すこと
- ・ 行政の公平：公平とは？

未来の人たちにとって公平か考える、過去の人、現在の人、未来の人を考えること

所 感

大杉氏のコメントと5名のパネラーの発言のそれぞれが強く示唆を与えるものだった。まず、テーマの「個性を活かして「選ばれる」まちづくりー何度も訪れたい場所になるために」の意味を再確認された。

パネラーの野口氏の人の発掘と活躍の応援、田中氏のワーケーションの可能性、桐野氏の街そのものがパビリオンで市民が案内人となる長崎さるくの取り組み、都竹氏のファンクラブ（関心人口）からヒダスケ（街の困りごとを手伝うボランティアとして来訪する行動人口）へ、藤原氏の田辺聖子氏ら有名人を伊丹大使に依頼し街の知名度を上げていく実践、いずれも大野城市の街づくりにヒントとなる。

一方、交通や自然に恵まれた条件からすでに「選ばれている」大野城市の場合、何よりも、大野城市に住む市民にとって、中学校給食の実施など住み続けたいと思える街づくりが大切であると考えさせられた。

—作成者 松崎百合子—

視察・研修報告書

視察・研修先	長崎さるく～長崎の医学・感染症対策視察
日 時	2022年10月13日（木）～10月14日（金）
場 所	長崎（小島）養生所跡資料館、長崎大学・熱帯医学ミュージアム
テーマ	科学的な発見とその応用により世界の保健問題を解決する
対応者 （講師）	長崎大学 熱帯医学研究所 所長 金子修氏
概 要	
<p>1. 長崎（小島）養生所跡資料館</p> <p>日本最初の近代西洋式病院である。</p> <p>日本近代西洋医学教育の父ポンペの病院設立の願いにより、1861年に開設された。建物はオランダの軍病院などを参考にポンペらオランダ人の設計に基づいて建設され、西洋式のものが導入される。</p> <p>出土遺物として洋酒瓶や洋薬小瓶、薬瓶、試験管などがあり、資料館に展示されている。</p> <p>ポンペ：1857年に28歳で来日。松本良順の協力を得て日本人に対する医学伝習を開始する。自然科学を基礎とした体系的な近代医学教育を日本で初めて導入し、5年間にわたる。</p>	
<p>2. 長崎大学熱帯医学研究所</p> <p>世界3大感染症、熱帯病は世界の乳幼児死亡原因7割。感染症は人数最大の脅威である。</p> <p>マラリア、結核、エイズにより年間250万人死亡している。</p> <p>1942年長崎医大付属東亜風土病研究所設立。</p> <p>ケニアでシオノギ製薬との産学連携事業（2019年2月～）抗マラリア薬を目指す。</p> <p>令和4年4月1日感染症研究出島特区</p> <p>ワクチン開発のための世界トップレベル研修開発拠点の形成事業（2022年～）</p> <p>BSL-4施設の役割</p> <p>世界人口の8.1%がコロナ感染している。</p> <p>2014年2月以降ギニアで59名以上の人が原因不明死であり。</p> <p>最貧国でエボラ出血熱発症。28646名発症中11323名死亡。</p> <p>検査者での野外検査を行う。日本から8千検査分のエボラ検査を導入した。</p> <p>病原体を安全に取り扱う基準。危険性に応じて4段階のリスクグループが定められている。</p> <p>感染症を克服するには、①病原体を知る②メカニズム解明③状況④診断方法⑤治療薬の開発</p> <p>平時からの基礎研究ができるBSL-4施設が必要だ。2021年7月に完成したことで、</p>	



全国の感染症研究者が研究できることになる。

地域理解促進活動を積極的に行った背景がある。現在 24 の国で 59 箇所同様の施設が設置されている。

所 感

長崎のまちを歩き、幕府の時代から感染症や医学の伝習があったことを学んだ。28 歳の若さで来日し、異国人に医学を伝えることは大変だったことだろうと推察する。現在も地球規模で新たな感染症が発症し、平時からの基礎研究の大切さを改めて痛感した。

-作成者 松田美由紀 -